

草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業概要表

| I. 提案事業の概要 | |
|------------------------|--|
| 1. 対象国名 | ドミニカ共和国 |
| 2. 事業名 | 日本梨をラ・クラタ地区の特産品にする産地形成プロジェクト |
| 3. 事業の背景と必要性 | ドミニカ共和国は1990年代に急速な経済成長を遂げる一方で、貧富の差が顕著になり、人口の約半数が貧困層となった。2016年ドミニカ共和国経済企画開発省の統計によると、農村部の貧困層の割合は38.1%と減少はしているものの、依然として世界平均を大きく上回っており、格差の是正は急務といえる。松戸市は2016年にドミニカ共和国農地庁と日本梨の栽培に係る覚書を交わし、本事業の対象地域であるラ・クラタ地区にて国際交流事業を実施してきた。同対象地域は、ドミニカ共和国中部のラ・ベガ県コンスタンサ市内に位置する。コンスタンサ市は山間部の標高約1,220mに位置し、気温は全国平均よりも低く、農業に適した地域であり、同国内の野菜生産の8割強を占める農業都市である。また、コンスタンサ市の人口約59,000人の内で直接的な農業従事者率は約60%である（ドミニカ共和国全人口約10,448,000人に対する農業従事者率は8.2%）。ラ・クラタ地区も農業を生業とする地域で、主な作物は、タマネギ、ジャガイモ、ニンジン、キャベツ等の伝統野菜である。ラ・クラタ地区の農家は、今もなおサトウキビなどモノカルチャー農業に従事し、それに代わる安定した収入を持っておらず、生活の基盤が十分に整っていない。これらの課題を解決するためには、タバコやサトウキビなど単一の農作物を生計とする農業形態を脱し、新たな農作物の産地を形成し、多様な収入源を確保することが必要である。 |
| 4. プロジェクト目標 | ラ・クラタ地区において日本梨が地域の特産品（*）として栽培される。 （*収穫量の大小、第三者からの認定に関わらず、生産者自らの意思で、特定の地域で栽培される農作物となること。） |
| 5. 対象地域 | ラ・ベガ県コンスタンサ市ラ・クラタ地区 |
| 6. 受益者層 （ターゲットグループ） | ・農地庁コンスタンサ支所職員（普及員30名） ・コンスタンサ市ラ・クラタ地区の農家（150戸 男・女） |
| 7. 生み出すべきアウトプット及び活動 | 〈アウトプット〉 1. 日本梨の栽培普及員が育成される。 2. 日本梨の栽培技術が一般農家に普及される。 3. 日本梨への興味・関心がラ・クラタ地区内外で高まる。 〈活動〉 1.1 プロジェクトチームがコアメンバーとともに日本梨の栽培普及計画を策定する。 1.2 プロジェクトチームが、一般農家へ栽培指導する際に使用する教材を作成する。 1.3 プロジェクトチームが、コアメンバーに日本梨の栽培方法を指導する。 1.4 コアメンバーが栽培普及員に日本梨の栽培方法を指導する。 1.5 プロジェクトチームが、コアメンバー及び栽培普及員に一般農家への普及方法を現地に適した方法で指導する。 2.1 プロジェクトチームがコアメンバーとともに、日本梨を栽培する一般農家を選定する。 3.1 プロジェクトチームがコアメンバーとともに、2020年度に実施した調査報告書を基に、マーケティング調査を実施する（特産品、観光農園、流通方法、広報ツール）。 3.2 プロジェクトチームがコアメンバーとともに、農家、一般消費者、日本国内向けの広報活動の計画し、実施する。 |
| 8. 実施期間 | （西暦）2022年4月～2025年4月（3年間） |
| 9. 事業費概算額 | 59,782千円 |
| 10. 事業の実施体制 | 日本側：松戸市、千葉大学 園芸学部、公益財団法人 松戸市国際交流協会、一般財団法人 松戸市観光協会、Y' SAgrri 合同会社 ドミニカ共和国側：農地庁、農地庁コンスタンサ支所 |
| II. 応募団体の概要 | |
| 1. 団体名（提案自治体名） | 松戸市 |
| 2. 活動内容 | 2016年11月ドミニカ共和国農地庁と日本梨の栽培に係る「覚書」を交わし、交流事業として「松戸市 ドミニカ共和国梨プロジェクト」を実施。 |